



大腸内視鏡検査

大腸内視鏡検査とは、肛門から11～13mm程度の細くて柔らかい内視鏡(カメラ)を入れて、大腸を観察する検査方法です。この検査によって、大腸がん・大腸ポリープ・炎症性腸疾患などの病気を診断します。内視鏡検査以外に大腸を検査する方法として、注腸検査・大腸CT・カプセル内視鏡がありますが、検査と同時に組織を採取したり、ポリープを切除できるのは大腸内視鏡検査のみです。

大腸内視鏡検査の受診をお勧めする方

- 下痢・便秘などの排便異常がある方
- 腹部不快感・下腹部痛がある方
- 血便や排便後に紙に血がつく方
- 最近便が細くなった方
- 便の検査で便潜血陽性を指摘された方
- 血液検査で貧血を指摘された方
- 血縁者に大腸がんを罹患した方がいる方



内視鏡設備

当院の内視鏡センターでは炭酸ガス送気装置、NBI内視鏡システム(がんが発見しやすい)など最先端の医療設備があります。また、内視鏡検査の苦痛を緩和するために鎮静剤の使用も行っています。

※女性の患者様も多くいらっしゃいますので、希望があれば女性医師が担当させていただきます。

大腸がんも他のがんと同じで早期の状態では無症状です。早期に発見することができれば、内視鏡治療のみでがんを克服することができ、抗がん剤治療や外科切除は必要ありません。

進行がんとなる前には是非検査をお受けください。

8月号の病院ニュースでは、便潜血検査のお話と内視鏡検査受診動機からみる早期大腸がんと進行大腸がんの割合を紹介させていただいておりますので、下記のQRコードまたはURLからご確認ください。

<http://www.plhospital.or.jp/contents/gNavi4/koho/backnumber/news/2020/news2008.pdf>



内視鏡検査に関しては、内科外来までお気軽にご相談ください。